

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

- Q1. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「行き」は四段「行く」連用形。連用形＋「し」、下が体言「人」→ 過去連体形。「行った人」。
- Q2. 答え：形容詞ク活用「清し」終止形 解説：「清し」（ク活用）の終止形。「月が清らかである」。文末で句点。
- Q3. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 解説：「旅行す」（サ変複合動詞）の連用形「旅行し」＋過去「けり」。「旅行した」。
- Q4. 答え：形容詞シク活用「悲し」連用形語尾「く」の前の「し」 解説：形容詞「悲し」（シク活用）の連用形「悲しく」。「し」は語幹の一部。「悲しく泣く」。
- Q5. 答え：副助詞「し」 解説：「我し思へば」の「し」を取り除いても「我思へば」で意味は通る → 強調の副助詞。「私が思うから、やはり恋しい」。
- Q6. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「住み」連用形＋「し」＋体言「人」→ 過去連体形。「京に住んでいた人」。
- Q7. 答え：形容詞ク活用「高し」終止形 解説：「高し」（ク活用）の終止形。文末。「山が高い」。
- Q8. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 解説：「学問す」（漢語＋サ変「す」の複合動詞）の連用形「学問し」＋存続「たり」。過去「き」の連体形「し」に「たり」（連用形接続）は続かないので、過去とは取れない。「学問をしていた」。
- Q9. 答え：副助詞「し」 解説：「のみし」の「し」は強調の副助詞。「のみ」と重ねて強調。「私だけが知っている」。
- Q10. 答え：形容詞ク活用「寒し」終止形 解説：「寒し」（ク活用）の終止形。文末。「風が寒い」。
- Q11. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「見」は上一段「見る」連用形（同形）＋「し」＋体言「夢」→ 過去連体形。「見た夢」。
- Q12. 答え：形容詞シク活用「美し」連用形「美しく」の語幹「美し」の「し」 解説：「美し」（シク活用）の連用形「美しく」＋動詞「咲く」＋体言「花」。「美しく咲く花」。
- Q13. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「帰り」連用形＋「し」＋体言「人」→ 過去連体形。「帰った人」。
- Q14. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「仕うまつり」連用形＋「し」＋体言「こと」→ 過去連体形。「お仕えたこと」。
- Q15. 答え：副助詞「し」 解説：「我ぞ思ふ」でも意味が通る。「し」は強調の副助詞。「ぞ」と重ねて係り結びを強める。
- Q16. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 解説：「勉強す」（漢語＋サ変「す」の複合動詞）の連用形「勉強し」＋存続「たり」。「夜どおし努め励んでいた」。
- Q17. 答え：形容詞シク活用「物悲し」連体形「物悲しき」の語幹の一部「し」 解説：「物悲し」（シク活用）の連体形「物悲しき」＋体言「秋」。「し」は語幹。※ シク活用の場合、連体形は「～しき」となる。
- Q18. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「来（き）」カ変連用形＋「し」＋体言「方」→ 過去連体形。「過去の方面・来た方」。
- Q19. 答え：形容詞ク活用「清し」終止形 解説：「清し」（ク活用）の終止形。「月夜が清らかである」。
- Q20. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「散り」連用形＋「し」＋体言「桜」。「散った桜」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

- Q21. 答え：**過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「行き」（四段連用）＋「しか」（過去「き」已然形）＋「ば」（原因）。「行ったので、知らない」。
- Q22. 答え：**形容詞シク活用「美し」連用形「美しく」の語幹の一部「し」 **解説：**「美し」（シク活用）連用形「美しく」＋動詞「眠る」。「し」は語幹の一部であり、助動詞や独立した「し」ではない。「美しく眠る」。
- Q23. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」ラ変連用形＋「し」＋体言「日」→過去連体形。「過ぎ去った日／在りし日」。
- Q24. 答え：**尊敬の助動詞「す」連用形「せ」（二重敬語） **解説：**「行か」（四段「行く」未然）＋尊敬「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」命令。「さあ、お行きなさいませ」。使役「す」の活用は「せ／せ／す／する／すれ／せよ」で、連用形は「せ」。
- Q25. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「言ひ」連用形＋「し」＋体言「人」＋係助詞「ぞ」＋ラ変「ある」連体（ぞの結び）。「物を言った人がいる」。
- Q26. 答え：**サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「旅す」（旅行する、の意のサ変）連用形「し」＋過去「き」連体形「し」？…正格には「旅す」連用形「し」＋過去「けり」已然形「けれ」＋「ば」。「旅をしたので、疲れた」。
- Q27. 答え：**形容詞ク活用「強し」終止形 **解説：**「強し」終止形。文末。「風が強い」。
- Q28. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「思ひ」連用形＋「し」＋体言「こと」。「思ったことを書きとめてしまった」。
- Q29. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「来（き）」カ変連用形＋「し」＋準体助詞「を」（～ことを）。「春が来たことを知らない」。
- Q30. 答え：**形容詞シク活用「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「悲し」（シク活用）連体形「悲しき」＋体言「朝」。「し」は語幹の一部。「悲しい朝」。シク活用の連体形は「～しき」。
- Q31. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「降り」連用形＋「し」＋体言「夜」。「雨が降った夜」。
- Q32. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「吹き」連用形＋「し」＋体言「人」。「笛を吹いた人」。
- Q33. 答え：**副助詞「し」 **解説：**「ばかり」（限定）＋「し」（強調）。「私だけが思う」。「し」を取り除いても文意が通る。
- Q34. 答え：**サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「出仕す」サ変連用形＋尊敬「たまふ」。「出仕なさる」。
- Q35. 答え：**過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説：**「言ひ」連用形＋「しか」（過去已然）＋「ど」。「物を言っただけども、答えない」。
- Q36. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「き」の終止形は「き」、連体形は「し」、已然形は「しか」。文末「し」は、係り結びの結びとして、または余情・詠嘆の含みを残して文末に連体形「し」が来ることがある。ここも連体形。「風の音が聞こえたことだ」。
- Q37. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「寝（ね）」下二段連用形＋「し」＋体言「夜」。「眠った夜」。
- Q38. 答え：**サ変動詞「す」連用形「し」 or 過去「き」連体形「し」 **正答：**両解釈可能。－「田植ゑ」（下二段「田植ゑる」連用形）＋過去「き」連体形「し」＋体言「所」→過去連体形－「田植ゑす」（複合サ変）連用形「田植ゑし」＋体言「所」→サ変連用形 **文脈による：**「田植ゑした所」「田植ゑをした場所」どちらも成立。
- Q39. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「読み」連用形＋「し」＋体言「こと」。「文章を読んだこと」。
- Q40. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「こぼれ」下二段「こぼる」連用形＋「し」＋体言「葉」。「露がこぼれた葉」。

Q41. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あひ知り」（複合動詞）連用形＋「し」＋体言「人」＋断定「なり」。「知り合いだった人である」。

Q42. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「書き」連用形＋「し」＋体言「手」。「物を書いた手」。

Q43. 答え：形容詞シク活用「美し」連体形「美しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「美し」（シク活用）連体形「美しき」＋体言「花」。「とても美しい花」。

Q44. 答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「吹き」（四段連用）＋「しか」（過去「き」已然形）＋「ば」（原因）＋「立ち」（四段連用）＋完了「ぬ」。「風が吹いたので、波が立った」。

Q45. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「住み」連用形＋「し」＋体言「頃」。「都に住んでいた頃」。

Q46. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「参り」連用形＋「し」＋体言「朝」。「御所に参った朝」。

Q47. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「知り」連用形＋「し」＋体言「事」。「知っていたこと」。

Q48. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「答へ」下二段「答ふ」連用形＋「し」＋体言「人」。「答えた人」。

Q49. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「仕うまつり」連用形＋「し」＋詠嘆「かな」（連体形接続）。「お仕えしたことだなあ」。

Q50. 答え：副助詞「し」 **解説：**「いま」（＝今）＋「し」（強調）。「今こそ思う」。「し」を取れば「いま思ふ」で文意は通る。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「聞き」連用形＋「し」＋準体助詞「もの」＋逆接「を」。「あると聞いていたのに、見ないので信じない」。

Q52. 答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋逆接「ど」 **解説：**「来（き）」カ変連用形＋「しか」（過去已然）＋「ど」。「春が来たけれども、花が咲かない」。

Q53. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」連用形＋「し」＋係助詞「や」＋「なし」＋係助詞「や」。「あったか、ないか」。伊勢物語の歌の改変。 ※ 原歌は「ありやなしや」だが、過去形入りなら「ありしやなしや」となる。

Q54. 答え：①前の「し」＝サ変動詞「す」連用形 ②後の「し」＝過去の助動詞「き」連体形 **解説：**「行幸し」（サ変連用）＋尊敬「たまひ」連用＋過去「き」連体「し」＋体言「こと」。「行幸なさったことがある」。

Q55. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「思ひ」連用形＋「し」、係助詞「ぞ」の結び（連体形）。「心で思ったのだ」。

Q56. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「言ひ」連用形＋「し」＋体言「人」＋引用「と」＋係助詞「こそ」＋已然形「思へ」（こそこの結び）。「言った人だと思うのだ」。

Q57. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**形容動詞「あはれなり」語幹＋引用「と」＋「思ひ」連用＋「し」＋体言「人」。「しみじみと思った人」。

Q58. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「詠じ」（サ変「詠ず」連用形）＋過去「き」連体形「し」＋係助詞「ぞ」（疑問）。「誰が詠じたのか」。

Q59. 答え：副助詞「し」 **解説：**「名に」＋「し」＋「負ふ」。「し」は強調の副助詞。「名にし負はばいざ言問はむ」の有名表現。「名前として持っているならば」。

Q60. 答え：形容詞ク活用「清し」終止形 **解説：**「清し」終止形＋引用「と」＋尊敬「仰せらる」。「月の光が清らかだ、とお命じになる」。

- Q61. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「とどまり」連用形＋「し」＋体言「人」＋「なし」。「都にとどまった人はいない」。
- Q62. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 or サ変「食ひす」連用形 **正答：**「食ひ」は四段「食ふ」連用形。「食ひし」は通常「過去き連体」と解する。「物を食った所」。
- Q63. 答え：**サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「結婚す」サ変連用形＋尊敬「たまふ」。「結婚なさる」。
- Q64. 答え：**過去の助動詞「き」已然形「しか」＋逆接「ど」 **解説：**「言ひ」連用＋「しか」＋「ど」。「人が言っただれども、無視した」。
- Q65. 答え：**副助詞「し」 **解説：**「なほ」(＝やはり)＋「し」(強調)＋「思ふ」。「やはり強く思う」。「し」を取っても通る。
- Q66. 答え：**形容詞シク活用「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「悲し」(シク)連体形「悲しき」＋係助詞「ぞ」の結び(連体形)。「物思ふ秋が悲しいのだ」。
- Q67. 答え：**傍線部「し」は形容詞「美し」連体形「美しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「いみじく」(シク活用連用形)＋「美しき」(シク活用連体形)。「とても美しい」。
- Q68. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「帰り」連用形＋「し」＋詠嘆「かな」(連体形接続)。「帰ったことだなあ」。
- Q69. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「嘆き」連用＋「し」＋体言「夜」。「嘆いた夜」。
- Q70. 答え：**形容詞ク活用「高し」終止形 **解説：**「高し」終止＋引用「と」。「山が高いと聞く」。
- Q71. 答え：**サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「食事す」サ変連用＋尊敬「たまふ」。「食事なさる」。
- Q72. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」ラ変連用形＋「し」＋係助詞「や」＋「なし」＋係助詞「や」。「あったか、ないか」。
- Q73. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「よかり」(形容詞「よし」連用形)＋「し」＋体言「こと」。「よかったこと」。※ 形容詞連用形＋「き」は普通に成立。
- Q74. 答え：**過去の助動詞「き」已然形「しか」＋逆接「ど」 **解説：**「降り」連用＋「しか」＋「ど」。「春雨が降ったけれども、花は散らない」。
- Q75. 答え：**副助詞「し」 **解説：**「のみ」(限定)＋「し」(強調)。「私だけが怒り、人は笑っている」。
- Q76. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 or サ変連用「し」 **正答：**「詠じ」(サ変「詠ず」連用形「詠じ」)＋過去「き」連体形「し」＋体言「歌」。「詠じた歌」。※ サ変動詞連用形＋過去「き」の組み合わせ。
- Q77. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「散り」連用＋「し」＋体言「花」。「散った花、また咲くだろう」。
- Q78. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」＋係助詞「ぞ」 **解説：**「吹き」連用＋「し」＋係助詞「ぞ」＋ナリ活用形容動詞「あはれなる」連体形(ぞの結び)。「笛を吹いた人がしみじみと趣ある」。
- Q79. 答え：**過去の助動詞「き」已然形「しか」＋「ばこそ」(強調確定) **解説：**「嘆き」連用＋「しか」＋「ばこそ」(～だからこそ)。下の「赤かれ」は形容詞「赤し」已然形(係助詞「こそ」の結び)。「嘆いたからこそ、目も赤いだ」。
- Q80. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」連用＋「し」＋体言「昔」。「過ぎ去った昔」。

【第4部】入試レベル (Q81～Q100)

- Q81. 答え：**過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」連用＋「し」＋体言「人」。「都にいた人を思い出すと、涙がこぼれる」。

Q82. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「住み」連用＋「し」＋体言「人」＋断定「に」＋係助詞「や」＋う変未然「あら」＋推量「む」。竹取物語の文体。「月の都に住んでいた人なのであろうか」。

Q83. 答え：比況の助動詞「ごとし」終止形 **解説：**「ごとし」（比況、～のようだ）の終止形。「玉のようだ」。形容詞ク活用に類する活用をする助動詞。※「し」が「ごとし」の一部であることに注意。

Q84. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「離れ」下二段連用＋「し」＋体言「男」＋格助詞「の」＋体言「心」＋係助詞「ぞ」＋形容動詞「あはれなる」連体形（ぞの結び）。「京を離れた男の心がしみじみと趣がある」。

Q85. 答え：形容詞ク活用「尊し」終止形 **解説：**「尊し」終止＋引用「と」。「とても尊いと、人々が皆涙を流す」。

Q86. 答え：副助詞「し」 **解説：**「よし」（＝もう・たとえ）＋「し」（強調）＋打消推量「思はじ」。「もう絶対に思うまい」。「し」は気持ちを強める。

Q87. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「詠み」連用＋「し」＋体言「人」＋形容詞已然「多かれ」＋逆接「ども」。「詠んだ人は多いけれども、心に残るのは少ない」。

Q88. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「渡り」連用＋「し」＋体言「人」。「中国に渡った人を、私こそ知っている」。

Q89. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「物す」（複合サ変、＝いらっしゃる・行く・ある・する等の婉曲的表現）連用形「し」＋尊敬「たまふ」連体形＋体言「御方」。「いらっしゃる御方」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q90. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「消え」下二段連用＋「し」＋体言「雲」＋比況「ごとし」。「明け方の空に消えた雲のようだ」。

Q91. 答え：形容詞シク活用「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「悲しき」（シク連体）＋体言「こと」＋形容詞「多し」終止。「過去や未来をよくよく思うと、悲しいことが多い」。

Q92. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「祈り」連用＋「し」＋体言「かひ」（＝甲斐）。「仏に祈った甲斐がある」。

Q93. 答え：形容詞ク活用「ありがたし」終止形 **解説：**「ありがたし」（＝めったにない）終止＋引用「と」。「めったにないと人々が皆申し上げた」。枕草子「ありがたきもの」の枕詞。

Q94. 答え：傍線部「し」＝形容詞「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部 **解説：**「いみじく」（シク連用）＋「悲しき」（シク連体）＋体言「心地」＋サ変「す」。「ひどく悲しい気持ちがする」。

Q95. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「旅寝」（名詞、または下二段「旅寝す」連用形）＋過去「き」連体形「し」＋体言「夜」＋格助詞「の」＋体言「夢」。「し」の直後が体言「夜」なので、過去「き」連体形で確定。「旅寝した夜の夢が覚めきれないうちに、月を見るほどがしみじみと趣がある」。

Q96. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「渡り」連用＋「し」＋連体「かの」＋体言「僧」。「中国に渡ったあの僧は、やはり我が国を恋しがる」。

Q97. 答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「言ひ」連用＋「し」＋体言「人」＋格助詞「に」＋係助詞「ぞ」＋動詞「似たる」連体形（ぞの結び）。「言った人に似ている」。

Q98. 答え：形容詞ク活用「あやなし」終止形 **解説：**「あやなし」（＝道理がない、わけがわからない）ク活用終止形。古今集の有名な歌「春の夜の闇はあやなし梅の花…」。「春の夜の闇は道理がない（梅の花の色は見えないが香りは隠せない）」。

Q99. 答え：①「よし」の「し」＝形容詞ク活用終止形 ②「告げしかば」の「し」＝過去「き」已然形「しか」の一部 **解説：**－「よし」（ク終止）×2：「月夜が良い、夜が良い」－「告げしかば」：「告げ」連用＋「しか」（過去已然）＋「ば」（原因）。「告げたので」全体：「月夜が良い、夜が良いと人が告げたので、出て見ると、本当に明るい」。

Q100. 答え：形容詞シク活用「久し」連用形「久しく」の語幹の一部「し」 **解説：**方丈記冒頭。「久しく」（シク連用）＋「とどまり」連用＋「たる」（存続「たり」連体）＋体言「ためし」。「長くとどまっている例はない」。